

提言

令和時代の「これでいいのか日本」。 新国家戦略の議論を願う。

2019年5月1日、新しい天皇陛下が即位され元号が「令和」になりました。

どんな時代になるのか、事あるごとに多くの方から質問されます。昭和、平成、令和とそれぞれの時代というのは、それぞれの時代を生きた人々が作りあげてきたものなのだと思います。

戦火に見舞われた昭和、さまざまな災害が多発した平成、そして令和。

それぞれの時代を生きた人々がいて、今があるのです。

思い返せば、平成の世に天皇皇后両陛下が全国をくまなく巡られ、国民を見舞われた折には、私は痛々しいほどのお姿に感動いたしました。

歴史を見ると、必ずと言っていいほど元号が変わった時には大きな変化が訪れています。昭和になった時も、平成になった時も、改元から半年で大きな変革が起こったのはご存知の通りです。

果たして5月1日から半年間の間に何が起きるのか。良い変革であることを心から祈りますが、そうでなくとも災い転じて福となすような日本であってほしいと願うばかりです。

そのために必要なのは「令和」という新しい時代に相応しい令和時代の新国家戦略であり、それを紡ぎ出すリーダーシップなのです。しかし安倍晋三首相の言動にはそうした意識や意欲は見えてきません。優れたリーダー不在の国家はいずれ滅びます。国家戦略のない国は世界の流れから置いていかれます。

私はトランプ氏が唱えた「アメリカ第一主義」そのものが良いとは思いませんが、少なくとも国家戦略ではありました。

平和があってこそその日本ですが、アメリカに追随してばかりいるわけにはいかないのです。日本は、高齢化、少子化など様々な国家的問題を抱えております。

今こそ、議論を深め、私が常々言っている「これでいいのか日本」という問いかけを続け、それを実行に移して行く英断が必要な時なのです。

安倍政権の「忖度」と、重箱の隅をつつくような野党の批判だけでは実のある議論は生まれません。

今こそ、国家という大きな視点を忘れずに、野党も与党も一丸となって国民の目の前に大議論を展開することが必要なのです。

そうすれば、国民も国の行く末に目を向け「これでいいのか日本」という意識を持つようになり、日本という国が一丸となって新たな時代を創造していくことができるのだと思います。

本誌主幹 大中 吉一